

ほっこりな♡ぼらんていあ  
和歌声一座 (わかこえいちぞ)

朝日新聞平成二十六年十月十七日の記事を抜粋

「和歌声一座」は施設訪問回数が十六日千三百回に達した。発足から三十六年、派手な幔幕の前で次々に濃いメイクと本格衣装で歌い踊る舞台上、お年寄りは昔を思い出し、涙を流して喜ぶ。

一座のメンバーは和歌声会の会員だ。会長兼座長の水谷正隆さん(八十三歳)が昭和五十三年に旗揚げし、現在の会員は二十八人。

水谷さんらは喜ばれる工夫として、灰色や白色が多い施設の壁には、あえて明るい色の幔幕を張り、祭り提灯を掲げ、一座ののぼり旗を並べると、すっかり小劇場の雰囲気変わった。会員の舞台衣装も凝っている。メイクも濃いアイシャドウ、ほおはピンクを強調して舞台映えるよう力を入れる。音響にもこだわり、機器を保管している水谷さんの自宅の一室は重みで床が抜けたほどだ。

現在のメンバーは六十代から八十代、女性が三分の二を占める。毎月二〜四回は慰問をし、相模原市内をはじめ鎌倉、藤沢や八王子市などの施設も訪れた。会費は三か月で二千元。会員の車に分乗して施設を訪れる際のカソリン代、ボランティアの保険料に充てている。訪問先での昼食は各自が持参したお握りを囲んで話が弾む。「この家族のようなチームワークの良さが一座が長く続いている鍵と思う」と水谷さん。

発足以来のメンバーは水谷さん、妻か寿美さん(八十歳)の二人だけ。「相手も我々も喜ぶことはいつまでもやめられません」。出番は続く。



唄と踊り夢の花舞台

平成29年10月15日 南市民ホール



1300回目の出演を終えた一座の人たち。水谷座長(前列左端)と妻か寿美さん(右隣)＝相模原市南区

災害復興支援 福祉活動連続40年 施設慰問活動1352回記念  
友情出演 日本舞踏名取 歌う舞姫 葵かを里さんと

お問合せは  
社会福祉 和歌声会(一座)代表;水谷 正隆さん  
電話・FAX 042-742-8757

87歳の水谷さんは奥様と共に40年以上施設訪問や災害復興イベントなど1400回近く会員に支えられ活動中。

東久邇宮福祉音楽褒章受賞をはじめ、沢山の表彰を受けられました。僧号;水谷 禅隆をもつ水谷さんは今でもパソコンでイベント案内や、名刺、封書の宛名など作成。総